

# 第171回「防災まちづくり談義の会」レポート

(防災塾・だるま・ホームページ: <http://darumajin.sakura.ne.jp/>)

2019年10月

◆日時: 2019年10月11日(金)14:30~16:00

◆会場: 川崎市健康安全研究所 1階 第1会議室

◆主催: 防災塾・だるま

司会: 山田美智子

記録: 中島光明

◆談義の会参加者: 会員15名、一般3名、研究所協力者20名(講師を含む)、合計38名



岡部信彦氏

話題: 『感染症と危機管理について』

講師: 岡部 信彦 氏 川崎市健康安全研究所 所長

市民の日常生活に直結している「公衆衛生」を守る拠点「地方衛生研究所」の役割を解説いただき、理解を深める貴重な機会となった。  
岡部先生は、感染症問題でNHK番組に度々出演される方で、非常に内容が解り易かった。  
講演に先立ち、研究所内を多数の研究者の案内で見学できました。

### 地方衛生研究所とは

- 都道府県、政令指定都市などに設置: 83か所
- 市民の健康で安全な暮らしを支えるための試験検査、調査研究、研修指導、情報発信
- 役割: **安全を守る** (食品、家庭用品、水)  
**感染症を予防する** (感染症動向調査、結核検査)  
**生活環境を守る** (水・有害昆虫検査)  
**感染源を調べる** (食中毒や感染症など)

### 感染症とは

◇微生物によってうつる病気:

人→人、もの→人、動物・虫→人

◇原因: 微生物(病原菌)が人にうつる(細菌、ウイルス、原虫など)

◇うつる病気、広がる可能性:

①重症や発育に影響を及ぼす

(エボラ出血熱、MERS、ハシカ、百日咳、O-157など)

②比較的軽症だが広がりやすく、多くの患者がでる

(インフルエンザ、ノロウイルスなど)

◇抵抗力: 軽いものはかかった方がいい、危険なものは防いだ方がいい

◇病原体の侵入ルート: 皮膚、のど・はな、目、腸管、性器、直接体内

◇血液中の白血球が微生物を攻撃: 体が勝てば治る、負ければ重症に

◇治療: 症状をやわらげる(対症療法)、微生物を攻撃(抗生物質など)、免疫を高める(インターフェロンなど)

◇予防対策: **手洗いは予防のために最も大切(きちんと丁寧な手洗い)**

◇飛散予防: 市販のマスクでOK(咳、くしゃみ、会話で病原体が飛散)



研究所の外



### <風疹(三日ハシカ)はなぜ予防するか?>

- 妊娠初期に妊婦が感染すると先天性風疹症候群(心疾患、聴力障害、視力障害、発育障害)の児を出産する可能性が高い。
- ワクチンの予防注射以外に予防法がない(予防注射2回: 1歳児と小学児童)
- 2015年調査による風疹患者: 20歳~45歳男性が多い
- 免疫のない人は他人に感染させる可能性がある、抗体の有無の検査が必要
- 「風疹第5期定期接種」のクーポン券が市町村で交付されている
- 今後海外旅行者の増加が見込まれ、風疹排除にはワクチン対策が必須

### 質疑応答の主なもの

学校保健委員会の内容が一般に広がらない課題、高齢者の結核対応、国と地域研究所の連携状況、地球規模での衛生教育の重要性、食の安全性の周知方法

### ●次回(第172回)案内

- 日時: 2019年11月29日(金)16時~17時30分
- 会場: 神奈川大学1号館301号室
- テーマ: 「チーム学校」が地域と連携した災害に強い学校・まちづくり
- 講師: 鷲山龍太郎氏